科目番号 49

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ [専門分野Ⅱ]・ 統合分野 ・ 臨地実習		
授業科目	老年看護学目的論	科目責任者	
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 15 時間/ 8 回		
授業の種類	[講義] ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技		
必修･選択	[必修] ・ 選択	年次･開講時期	1 年次・後期
履修条件	有 ・ [無] （ ）		

担当教員名	実務経験の有無･実務経験内容
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （ ＭＳＷ ）

学習目的と到達目標

〈学習目的〉
老年看護学目的論では、高齢者を生物学的、社会学的な変化の中でとらえ、老いて生きる人々の生活とそれをとりまく社会の視点で高齢者の多様性を理解する。また、ライフサイクルのなかで老年期をとらえ、高齢者の特徴とその健康生活を理解し、高齢者を対象とする看護観を育む。

〈到達目標〉
1．老年看護の概念を理解する。
2．多様な生活の場で生活する高齢者を理解する。
3．高齢者をとりまく保健・医療・福祉動向を理解する。
4．老年看護における倫理的な問題を理解する。

授 業 計 画

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	老年看護の変遷	1）高齢者に関する保健医療福祉の変遷・概念 （1） 人口学的指標からの老年期の理解 （2） 生活の視点からの老年期の理解 （3）生活史・生活習慣・生活様式 2）老年看護の役割と機能 3）老年看護学と他の学問領域との関連	講義	
2	高齢者の理解の基本となる概念	1）老年期と発達と変化 （1） ライフサイクルからみた高齢者 （2） 加齢と老化 （3） 発達課題 2）高齢者の生活の質（価値観含む）の保証 3）加齢への適応 （1） 喪失体験と獲得体験 （2）サクセスフルエイジング・スピリチャリティ	講義	
3	老年看護の特徴	1）安全・安楽な生活援助 2）チームアプローチ（多職種連携） 3）地域包括ケアシステム 4）家族との協働 5）人生の統合をはかる支援 6）高齢者に対する特徴的な災害看護	講義	
4	多様な生活の場で生活する高齢者の理解①	1）高齢者の暮らしの特徴・関連する医療福祉制度・ （1） 医療施設の種類と特徴 （2） 介護保険施設等の種類と特徴 （3） 医療保険制度・介護保険制度 （4） 地域密着型・居宅サービスの種類と特徴	講義	

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
4	多様な生活の場で生活する高齢者の理解①	（５）福祉用具･介護用品の安全で有効な活用支援	講義	
5	多様な生活の場で生活する高齢者の理解②	（５） 生活の場の移動と看護の継続（退院支援・退所支援） （６） 多職種連携･チームアプローチ（看護と介護の協同）	講義	
6	老年看護の倫理①	１）高齢者差別の防止 （1） 高齢者の尊厳と権利擁護（アドボカシー） （２） ノーマライゼーション （３） 意思決定・自立支援とエンパワメント	講義	
7	老年看護の倫理②	２）老年看護の倫理的課題 （１） 安全の確保（虐待・身体拘束） （２）高齢者の人権に関する制度（成年後見制度）	講義	
8	終講試験 筆記 (60 分)	筆記試験	試験	
授業内訳	講義：7 回(14 時間) 試験：1 回(2 時間)			

準 備 学 習 等

＜予習について＞
・事前にシラバスを活用し、学習内容と範囲を確認して授業に臨むこと。
・授業範囲を確認し教科書を事前に熟読して授業に臨むこと。
＜復習について＞
・講義資料・教科書の振り返りを行い、授業のポイントを整理・理解する。
・終講試験・国家試験対策につなげる。

成績評価の方法	評価配分：筆記試験（100%） 関根（80%）・庄子（20%） レポート 出席状況及び学習態度を加味する。	
テキスト	・ 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・ 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護病態･疾患論 医学書院 ・ 国民衛生の動向 財団法人厚生統計協会	
参考図書	・ナーシンググラフィカ老年看護学①・② ・ 基礎看護学講座 看護学総論[1] 医学書院 ・ 基礎看護学講座 臨床看護総論[4] 医学書院 ・ 系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 医学書院 ・ 系統看護学講座 統合 在宅看護論 医学書院	
備 考	本科目は老年看護学臨地実習Ⅰ(２年次後期)の履修前提条件となる。	
国家試験出題基準	必修問題 目標Ⅰ－1－B－a～e 目標Ⅰ－3－B－a～e 目標Ⅰ－9－A－e、 f 人体の構造と機能 目標Ⅰ～Ⅲ－17－B－ b 健康支援と社会保障制度 目標Ⅰ－2－B－ d 目標Ⅱ－5－B－C 目標Ⅱ－6－B－e	老年看護学 目標Ⅰ－4－A－a、b 目標Ⅰ－2－B～C－a～e 目標Ⅰ－1－A－a～ c 目標Ⅰ－1－B～C 目標Ⅰ－4－C－a～i 目標Ⅰ－4－A～B 目標Ⅲ－9－A～B 目標Ⅰ－1－B－a～c

科目番号 50

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・[専門分野Ⅱ]・ 統合分野 ・ 臨地実習		
授業科目	老年看護学対象論	科目責任者	
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 30 時間/ 15 回		
授業の種類	[講義] ・ [演習] ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技		
必修･選択	[必修] ・ 選択	年次･開講時期	1 年次・後期
履修条件	[有] ・ 無 （ ）		

担当教員名	実務経験の有無･実務経験内容
	[有]・無 （ 看護師 ）
	[有]・無 （ 看護師 ）

学習目的と到達目標

〈学習目的〉

老年看護学対象論では、高齢者の個人差や多様な価値観・健康障害が、長い生活暦によって培われている特徴を明らかにし、現代社会情勢を踏まえた上で、生活者である個々の高齢者にとっての安寧な状況や自律とは何かについて考え、高齢者の健康段階に応じた看護の特徴を理解する。

〈到達目標〉

1．加齢に伴う諸機能の変化を理解する。
2．高齢者の生活と健康障害の特徴を理解する。
3．治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護が理解できる
4．認知症の高齢者の家族が理解できる。
5．高齢者の健康段階に応じた看護の特徴を理解する。

授 業 計 画

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	加齢に伴う変化	1）加齢に伴う変化の特徴 （1） 身体的機能の変化①	講義	
2	加齢に伴う変化	（2） 身体的機能の変化②	講義	
3	加齢に伴う変化	（3） 精神的機能の変化	講義	
4	加齢に伴う変化	（4） 社会的機能の変化	講義	
5	加齢に伴う変化	（5） 高齢者体験	演習	
6	高齢者の健康と疾病	1）高齢者の健康の特徴 （1） 老年期の健康のとらえ方 （2） 生活習慣と健康 （3） 生きがいと生活の満足感	講義	
7	高齢者の健康と疾病	2）高齢者の疾病の特徴（老年症候群含む） （1） 老年期に特徴的な疾病構造 3）高齢者の疾病をめぐる特徴	講義	
8	治療･介護を必要とする高齢者の家族の看護	1）高齢者の家族の健康と生活への影響 （1） 看護の対象としての家族 （2） 介護者の健康 （3） 介護者の社会生活 2）家族全体への影響と介護への適応 （1） 家族システムのアセスメント （2） 家族の発達課題とニーズの競合	講義	

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
8	治療･介護を必要とする高齢者の家族の看護	3）介護状況と介護力評価、介護適応のための援助	講義	
9	認知症の高齢者・　家族の理解	認知症サポーター養成講座受講①	講義	
10	認知症の高齢者・　家族の理解	認知症サポーター養成講座受講②	講義	
11	高齢者の健康段階に応じた看護	1）急性期にある高齢者の看護 （手術療法・せん妄を含む）	講義	
12	高齢者の健康段階に応じた看護	2）慢性期にある高齢者の看護 （薬物療法を含む）	講義	
13	高齢者の健康段階に応じた看護	3）回復期・リハビリテーション期にある高齢者の看護（廃用症候群予防・転倒予防を含む）	講義	
14	高齢者の健康段階に応じた看護	4) エンド･オブ・ライフ･ケア 家族参加･グリーフケア	講義	
15	終講試験 筆記（60 分）		試験	
授業内訳	講義：13 回（26 時間）　演習：1 回（2 時間）　試験：1 回(2 時間)			

準 備 学 習 等

＜予習について＞
・事前にシラバスを活用し、学習内容と範囲を確認して授業に臨む。
・授業範囲を確認し教科書を事前に熟読して授業に臨む。
＜復習について＞
・講義資料・教科書の振り返りを行い、授業のポイントを整理・理解する。
・終講試験・国家試験対策につなげる。

成績評価の方法	筆記試験（100%）　関根（50%）･　松崎（50%） レポート　出席状況及び学習態度	
テキスト	･　系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学　医学書院 ･　系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護病態･疾患論　医学書院	
参考図書	・ナーシンググラフィカ老年看護学①・② ・基礎看護学講座　看護学総論[1]　医学書院 ・系統看護学講座　基礎　家族論・家族関係論　医学書院	
備　考	本科目は老年看護学臨地実習Ⅰ（２年次後期）の履修前提条件となる。	
国家試験出題基準	必修問題 目標Ⅰ－3－C－a～e 目標Ⅱ－7－G－a～c 目標Ⅱ－8－A－a～c 目標Ⅱ－8－B－a～ｂ 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅰ－11－e	老年看護学 目標Ⅰ－3－A～D 目標Ⅰ－1－D－a～c 目標Ⅱ－6－A～E－H 目標Ⅱ－7－A－a～c 目標Ⅱ－7－K－e, g

科目番号 51

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ [専門分野Ⅱ]・ 統合分野 ・ 臨地実習		
授業科目	老年看護学方法論	科目責任者	
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 30 時間/ 15 回		
授業の種類	[講義] ・ [演習] ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技		
必修･選択	[必修] ・ 選択	年次･開講時期	2 年次・前期
履修条件	[有] ・ 無 （ ）		

担当教員名	実務経験の有無･実務経験内容
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （摂食嚥下障害看護認定看護師）
	[有] ・ 無 （ 認知症看護認定看護師 ）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）

学習目的と到達目標

〈学習目的〉
老年看護学方法論では高齢者の加齢・健康障害を踏まえ、自律に視点をおいた看護を提供する為に、看護者としての役割を果たす上で必要な基本的な方法とそれを支える概念や根拠に関する知識を得る。
〈到達目標〉
1．高齢者への日常生活援助技術を習得する。
2．事例を通して健康障害をもつ高齢者を統合的に理解し、対象に必要な看護について理解を深める。

授 業 計 画

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	高齢者の健康を支える看護	高齢者のフィジカルアセスメント （1）フィジカルアセスメントの方法・留意点 （2）高齢者の機能と評価 2）高齢者のコミュニケーション （1）高齢者のコミュニケーション能力 （2）コミュニケーションを促す要素と阻害要因 （3）高齢者とのコミュニケーション方法	講義	
3	高齢者の健康を支える看護	1）高齢者の健康生活維持のための看護 ＊各項目アセスメント （1）食生活と栄養（低栄養含む） ①食生活の状況 ②嚥下機能（摂食･嚥下障害含む） 嗜好性･環境に応じた食生活の援助	講義	

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
4	高齢者の健康を支える看護	（２）排泄の状況、排泄能力の変化に応じた援助 （３）運動と休息、生活のリズムと調整 （睡眠障害含む） （４）清潔、身だしなみ、衣生活 （５）社会参加の状況と参加への援助 （６）セクシュアリティーへの援助	講義	
5	高齢者の特有な症候･疾患･障害と看護	高齢者の受療状態に応じた看護 （１） 外来受診、入院時、退院時の看護 （２） 検査を受ける高齢者の看護 （３） 健康維持･増進に向けた看護 （フレイル・介護予防含む）	講義	
6	高齢者の特有な症候・疾患・障害と看護	加齢に伴う高齢者のおこりやすい主要な症状と看護 （１） 感染症・発熱、脱水症	講義	
7	高齢者の特有な症候・疾患・障害と看護	（２） 痛み・かゆみ（皮膚の障害含む）	講義	
8	高齢者の特有な症候・疾患・障害と看護	（３） 失禁および便秘・下痢	講義	
9	高齢者の特有な症候･疾患･障害と看護	１）機能障害をもつ高齢者の特徴と看護 （１） 循環・呼吸機能障害をもつ高齢者の看護 ① 循環器疾患（虚血性心疾患・心不全）	講義	
10	高齢者の特有な症候･疾患･障害と看護	② 呼吸器疾患（誤嚥性肺炎・COPD）	講義	
11	高齢者の特有な症候･疾患･障害と看護	（２） 運動機能障害をもつ高齢者の看護 ① 整形外科(骨粗しょう症・大腿骨頸部骨折・変形性膝・股関節症)	講義	
12	高齢者の特有な症候･疾患･障害と看護	② 脳血管障害（脳梗塞・脳出血・パーキンソン病）	講義	
13	高齢者の特有な症候･疾患･障害と看護	（３） 認知機能障害をもつ高齢者の看護 ① 認知症 ②うつ病	講義	
14	高齢者の特有な症候･疾患･障害と看護	（４） 感覚機能障害のある高齢者の看護 老人性難聴・白内障	講義	
15	終講試験 筆記（60 分）		試験	
授業内訳	講義：14 回（28 時間） 試験：1 回(2 時間)			

準 備 学 習 等

＜予習について＞
・事前にシラバスを活用し、学習内容と範囲を確認して授業に臨む。
・授業範囲を確認し教科書を事前に熟読して授業に臨む。
＜復習について＞
・講義資料・教科書の振り返りを行い、授業のポイントを整理・理解する。
・終講試験・国家試験対策につなげる。

成績評価の方法	筆記試験（100%）関根（20%）・松崎（20%） 外部講師(60%)（各 10%） レポート　出席状況及び学習態度	
テキスト	・　系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学　医学書院 ・　系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護病態･疾患論　医学書院 ・　根拠がわかる老年看護技術　メヂカルフレンド社	
参考図書	・ナーシンググラフィカ老年看護学①・②	
備　考	本科目は老年看護学臨地実習Ⅰ(２年次後期)の履修前提条件となる。	
国家試験出題基準	疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅳ－5－A－a～c 目標Ⅳ－6－A－ｂ～ｄ 目標Ⅳ－6－B－ｄ 目標Ⅳ－8－c～a 目標Ⅳ－7－c～d 目標Ⅳ－12－A－ｂ－ｄ 目標Ⅳ－12－A－ｄ 目標Ⅳ－11－C－a－b	老年看護学 目標Ⅰ－2－A-a～h 目標Ⅱ－5－A-a～c 目標Ⅱ－5－B～I 目標Ⅱ－6－F～G 目標Ⅱ－7－B～J 目標Ⅱ－7－Q-a～c 目標Ⅱ－7－Q～P 目標Ⅱ－7－N-a～c 目標Ⅱ－7－L～M－a～c 目標Ⅱ－7－H～I 目標Ⅲ－11－S

科目番号 52

分野	基礎分野 ・ 専門基礎分野・ 専門分野Ⅰ ・ [専門分野Ⅱ]・ 統合分野 ・ 臨地実習		
授業科目	老年看護学演習	科目責任者	
単位/時間数/授業回数	1 単位/ 30 時間/ 15 回		
授業の種類	講義 ・ [演習] ・ 実習 ・ 実験 ・ 実技		
必修･選択	[必修] ・ 選択	年次･開講時期	2 年次・後期
履修条件	有 ・ [無] （ ）		

担当教員名	実務経験の有無･実務経験内容
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）
	[有] ・ 無 （摂食嚥下障害看護認定看護師）
	[有] ・ 無 （ 看護師 ）

学習目的と到達目標

〈学習目的〉

老年看護学演習では、老年看護学目的論・対象論・方法論で学んだ知識を統合させ、具体的な事例に基づいて演習を展開し、基本的な老年看護技術の習得を目指す。高齢者に多い疾患および複数の障害をもつことをイメージできるように、これからの高齢社会に伴い直面する看護問題を捉えられる能力を習得する。

〈到達目標〉

1．高齢者への日常生活援助技術を習得する。
2．事例を通して健康障害をもつ高齢者を統合的に理解し、対象に必要な看護について理解を深める。

授 業 計 画

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
1	高齢者への日常生活援助技術	1）食事への援助 （1） 嚥下体操、アイスマッサージ （2） 誤嚥予防の食事	演習 実施	
2・3	高齢者への日常生活援助技術	2）排泄への援助 （1） おむつ交換の実際 （2） 排泄の自立にむけた援助	演習 実施	
4	高齢者への日常生活援助技術	3）移動への援助 （1） 麻痺のある人の移動の実際 ①杖歩行 ②車椅子移乗（トイレ移乗） （2） 転倒･転落予防について	演習 実施	
5	高齢者への日常生活援助技術	4）レクリエーションへの援助 （1）レクリエーションの企画・運営 （2）臨地実習での学び＊老年臨地実習Ⅰで実施	講義 演習 実施	
6	看護過程の展開	1）健康障害をもつ高齢者への看護過程の展開 （1）事例をもとに情報整理 個人ワーク	演習	
7	看護過程の展開	（2）アセスメント 個人ワーク	演習	
8	看護過程の展開	（3）アセスメント・関連図 個人ワーク	演習	

回数 (1 回 90 分)	学習課題	学習内容	授業方法	担当
9	看護過程の展開	（4）関連図・問題点の抽出・優先順位の理由 グループワーク	演習	
10	看護過程の展開	（5）関連図・問題点抽出・優先順位の発表 グループ発表	演習	
11	看護過程の展開	（6）看護上の問題を選出(問題点 2 項目)、具体策立案 指導計画書立案 グループワーク	演習	
12	看護過程の展開	（7）看護上の問題を選出(問題点 2 項目)、具体策立案 指導計画書立案 グループワーク	演習	
13	看護過程の展開	（8）指導計画・指導媒体評価 クラス毎評価実施・検討 グループワーク	演習	
14	看護過程の展開	2）健康な生活のための指導案の立案・実施 グループ毎実施(ロールプレイ) ＊実習室使用	演習	
15	看護過程の展開	3）健康な生活のための指導案の実際・評価 実施・評価・修正 グループワーク ＊実習室使用	演習	
授業内訳	演習(実技)：5 回（10 時間）　演習（看護過程）：10 回（20 時間）			

準 備 学 習 等

＜予習について＞
・事前にシラバスを活用し、学習内容と範囲を確認し、老年方法論の授業資料を復習して授業に臨む。
・基礎看護学演習を復習して臨む。(看護技術・方法・留意点など確認して臨む)
＜復習について＞
・演習資料・実施の振り返りを行い、高齢者の特徴を考え安全・安楽・自立の視点で授業のポイントを整理・理解する。
・課題レポート、国家試験対策につなげる。

成績評価の方法	・ レポート・提出物の内容(評価表あり) ・ 出席状況及び学習　態度		
テキスト	・ 系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護学　医学書院 ・ 系統看護学講座　専門Ⅱ　老年看護病態･疾患論　医学書院 ・ 根拠がわかる老年看護技術　メヂカルフレンド社		
参考図書	・ナーシンググラフィカ老年看護学② ・系統看護学講座　基礎看護学[1]　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 ・系統看護学講座　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 ・根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院		
備 考	本科目は老年看護学臨地実習Ⅱ(3 年次後期)の履修前提条件となる。		
国家試験出題基準	必修問題 目標Ⅱ－11－B－ｆ 目標Ⅳ－14－A－a～ｂ 目標Ⅳ－14－A－a～ｂ 目標Ⅳ－14－B－a,ｅ 目標Ⅳ－14－C－a～ｄ 疾病の成り立ちと回復の促進 目標Ⅳ－11－A－a,ｂ,ｅ	基礎看護学 目標Ⅰ－3－A～D 目標Ⅰ－4－B－a～g 目標Ⅰ－4－C－a～ｈ 目標Ⅰ－4－D－a～e 老年看護学 目標Ⅰ－5－D－a,ｂ 目標Ⅰ－5－E－a,ｂ 目標Ⅰ－5－E～F	老年看護学 目標Ⅰ－5－G－a～ｂ 目標Ⅱ－5－C－a～e 目標Ⅱ－7－A－a～c 目標Ⅱ－7－C～D 目標Ⅱ－7－P－a～c 目標Ⅲ－9－F～H